

第3回利賀ダム環境検討委員会 議事要旨

開催年月日／会場	議 事	出席委員(敬称略)	調査の実施状況(既往調査・補足調査)について	議事要旨	
平成18年2月24日 バレブラン高志会館 薫風 (富山市千歳町)	①前回委員会の指摘事項およびその対応について ②調査の実施状況(既往調査・補足調査)について	阿部 學(日本猛禽類研究機構 理事長) 大串 龍一(金沢大学名誉教授) 小泉 邦雄(富山大学工学部教授) 高倉 盛安(元富山県立大学短期大学部長) 田中 晋 (富山大学名誉教授) 長井 真隆(元富山大学教育学部教授) 湯浅 純孝(富山県自然博物館ねいの里 館長)	調査の実施状況(既往調査・補足調査)について	大気環境 動植物	<ul style="list-style-type: none"> 生態系に対して、風の変化が影響を与える場合がある。 調査結果で確認種の数量が示されているが、十数年前からのデータを全て積み上げており、現在は生息しない種も計上されているおそれがある。このため、年代で区切って整理するという観点が必要ではないか。特に、昆虫類は気を付けること。 年代を5年とか10年で区切って、中期、後期での確認というような整理が必要。 生物相のデータが古くなっていないか、確認が必要。 昼間に休息する夜行性の動物等には、昼間の工事の騒音などの影響がないのか留意すること。
				魚類	<ul style="list-style-type: none"> 確認種リストは、ダム周辺のデータと庄川の下流部のデータが入り交じっており、種によってはダム周辺に生息・生育しているように見え、違和感がある。調査地区で区分する等の整理が必要。 魚類については、過去から現在までの生息種や生息量の変化について、漁協への聞き取り調査が必要。
				生態系	<ul style="list-style-type: none"> 落葉広葉樹林に代表的な哺乳類として、ヒメネズミが選定されているが、アカネズミの方がより個体数が多く、典型的といえるのではないか。